

令和2年度 事業報告書

I 法人の概要

II 事業の概要

III 財務の概要

学校法人高木学園

福岡県福岡市早良区百道浜三丁目6番40号

令和2年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指す。医療福祉教育における各専門職の隔壁を外し、医療や福祉の専門職を目指す学生が共に学び、自らの専門に加え、常に自分の専門以外の幅広い知識や他人に対する優しい心を養うことが重要との考えの下、多彩な医療福祉専門職の育成とその地位向上を目的とする。

(2) 学校法人の沿革

学校法人高木学園は、福岡国際医療福祉大学・専門学校柳川リハビリテーション学院・大川看護福祉専門学校を有する学校法人である。

特に、専門学校柳川リハビリテーション学院は、私学のリハビリテーションの養成校として、1990年に福岡県内で初めて誕生した伝統校である。

当法人は西日本のリハビリテーション医療をリードする優秀な人材を養成し続け、これまでに7,000名以上の卒業生を輩出してきた。

1990年4月	柳川リハビリテーション学院	・厚生省より理学療法士20名、作業療法士20名の養成施設として指定を受ける ・福岡県初の私学のリハビリテーション養成校として開校
	大川看護福祉専門学校	・大川看護学院を開校 課程：看護婦科2年課程
1992年3月	大川看護福祉専門学校	・大川看護専門学校に改称
1993年4月	柳川リハビリテーション学院	・入学定員変更（理学療法・作業療法学科定員40名）（夜間部理学療法・作業療法学科定員20名）
1997年4月	柳川リハビリテーション学院	・医療言語聴覚学科開設
1999年4月	柳川リハビリテーション学院	・学科名変更（医療言語聴覚学科から言語聴覚学科）
2001年4月	大川看護福祉専門学校	・介護福祉学科（2年課程）を開設。学校名を大川看護福祉専門学校に改称
	福岡国際医療福祉学院	・厚生労働省より理学療法士40名・作業療法士40名・言語聴覚士40名・視能訓練士40名の養成施設として指定を受ける ・福岡国際医療福祉学院を開校
2003年4月	福岡国際医療福祉学院	・厚生労働省より理学療法士（夜間課程）40名・作業療法士（夜間課程）40名の養成施設として指定を受ける
2005年4月	大川看護福祉専門学校	・看護学科（3年課程）を開設
2008年4月	福岡国際医療福祉学院	・福岡市早良区に移転。看護学科開設
2019年4月	福岡国際医療福祉大学	・福岡国際医療福祉大学開学
2020年3月	福岡国際医療福祉学院	・福岡国際医療福祉学院閉校
2020年10月	福岡国際医療福祉大学	・文部科学省より国際医療福祉大学福岡看護学部を本学に移

(3) 設置する学校・学部・学科等

(令和3年3月31日現在)

福岡国際医療福祉大学 (福岡県福岡市早良区百道浜三丁目 6-40)	医療学部 (4年課程)	理学療法学科
		作業療法学科
		視能訓練学科
		言語聴覚専攻科 (2年課程)
専門学校柳川リハビリテーション学院 (福岡県柳川市上宮永町 116-1)	理学療法学科 (3年課程)	
	作業療法学科 (3年課程)	
	言語聴覚学科 (3年課程)	
大川看護福祉専門学校 (福岡県大川市酒見 391-5)	看護学科 (3年課程)	
	介護福祉学科 (2年課程)	

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和3年3月31日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数	
福岡国際医療福祉大学	医療学部	理学療法学科	40	44	160	90
		作業療法学科	40	44	160	90
		視能訓練学科	40	46	160	85
	言語聴覚専攻科	40	26	80	47	
小計		160	160	560	312	
専門学校 柳川リハビリテーション学院	理学療法学科	40	42	120	96	
	作業療法学科	40	35	120	73	
	言語聴覚学科	40	34	120	62	
小計		120	111	360	231	
大川看護福祉専門学校	看護学科	40	37	120	117	
	介護福祉学科	40	16	80	34	
小計		80	53	200	151	
合計		360	324	1,120	694	

(5) 役員の概要 (令和3年3月31日現在)

理事	8名 (定数 5～8名)
監事	2名 (定数 2名)
評議員	17名 (定数 11～17名)

(6) 教職員の概要

(令和3年3月31日現在)

福岡国際医療福祉大学	教員	43名(教授20名、准教授5名、講師8名、助教10名)
	職員	30名
専門学校 柳川リハビリテーション学院	教員	17名
	職員	12名
大川看護福祉専門学校	教員	14名
	職員	7名

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

● 福岡国際医療福祉大学

① 本学の特長を生かした教育の実施

本学は、保健、医療、福祉の分野において、高い知識と優れた技能、そして科学的・創造的探究心と豊かな人間性を備えた、時代のニーズや地域医療に貢献できる有為な専門職を養成することで、基本理念にある「共に生きる社会」の実現を目指すものである。

令和2年度は1学年と2学年の在籍となり、基本理念・教育目標を実現するため、調和のとれた人格形成に必要な教養科目を中心とした基礎的な指導と、各分野における専門科目の学修による実践的な指導を行った。

② 学生への支援活動体制

○アドバイザー制度を採用し、学生の学修や生活に関する相談や指導を実施した。

○単位取得が困難な学生のみならず、自主的に学修を希望する学生に対して個別指導やグループ学習による指導を実施した。

○学生の自治組織である学友会組織について、新型コロナウイルス感染症の影響により活動が難しい状況での運営の助言を行った。

○本グループ医療機関で受診した場合の教育後援会による窓口一部負担金の補助を行った。

特に実習前のPCR検査費用など、新型コロナウイルス感染症対策の支援も行った。

③ 教職員の資質向上のためのFD・SDの実施

福岡国際医療福祉大学FD委員会を設置し、SDについてもこの委員会での審議に基づき、取組みを展開した。FD委員会は教務委員会と連携し、教育の質の向上を目指している。

○令和2年度FD・SD活動実績

開催日	講演テーマ	講師
2020年7月22日	UPIテストの結果及び本学学生の状況について	古賀由衣(福岡国際医療福祉大学臨床心理士)
2020年8月19日	科研費申請セミナー	飛松省三(福岡国際医療福祉大学医療学部視能訓練学科教授)
2020年8月19日	学内研究会	
2020年8月31日	ハラスメント防止講習	別府美知子(国際医療福祉大学人事研修室チーフインストラクター)

2020年9月23日	大学教育における教育評価について	大塚雄作(国際医療福祉大学大学院特任教授)
2020年10月21日	研究倫理・コンプライアンス研修	
2020年12月23日	アクティブラーニング	赤津晴子(国際医療福祉大学教授・医学教育統括センター長)
2020年12月25日	I R (Institutional Research) の理解とデータ分析の事例	山之口稔隆(福岡国際医療福祉大学 I R 推進室長)
2021年3月24日	グッドティーチング賞表彰 受賞者プレゼンテーション	

④国家試験等合格状況(別表1)

言語聴覚専攻科において、最初の国家試験受験となり全国合格率を上回る結果となった。

⑤就職状況(別表2)

言語聴覚専攻科において、最初の修了生で就職希望者全員が就職となった。今後も丁寧な指導を行い、就職率100%達成を目指す。

⑥研究活動に係る外部資金獲得状況

令和2年度に本学で採択、交付された文部科学省科学研究費助成事業は、交付件数2件(前所属からの移管分を除く)、交付総額15,800千円、奨学寄付金の受入1件(1,000千円)であった。

【令和2年度実績】

(単位:千円)

項目	交付件数	交付金額
文部科学省科学研究費助成事業(代表者)	6	15,800
奨学寄付金	1	1,000
合計	7	16,800

⑦入学者選抜

○入学試験結果(令和2年度実施)

学部学科等	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
医療学部				
理学療法学科	40	276	76	43
作業療法学科	40	110	62	44
視能訓練学科	40	140	58	44
看護学部				
看護学科	100	672	186	111
言語聴覚専攻科	40	30	29	28
計	260	1228	411	270

○志願者確保の方策

進学情報誌・WEB 媒体の積極的な活用に加え、会場型・高校内の進学ガイダンスに参加した。高校内出張講義及び大学見学会の受入を行い、北部九州（山口・福岡・長崎・大分）及び鹿児島を強化エリアとし九州・山口地区高校訪問を実施し、参事・職員で年間 2,400 校を訪問した。

学内イベントとして高校教員対象大学説明会を 2 回開催し、計 78 校 85 名の参加があった。オープンキャンパス（医療学部）6 回開催延べ 649 名参加、オープンキャンパス（看護学部）4 回開催延べ 504 名参加。さらに、一般入試前期地方試験実施都市（山口・長崎・大分・鹿児島）において入試説明会を開催した。

⑧学生によるボランティア活動や地域行事への参加

新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛

⑨地域との交流関係

新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛

⑩社会的活動

新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛

⑪自己点検・評価の実施

自己点検・評価委員会において、学内に設けられている各委員会及び学科・専攻科ごとの活動内容をまとめ、点検整備した上で 2019 年度自己点検・評価報告書を作成した。また、教員の教育・研究活動等については 2019 年度年報として 2019 年度自己点検・評価資料集「ザ・フクオカ」を作成した。いずれも本学ホームページを通じて公表している。

⑫看護学部設置について

国際医療福祉大学福岡看護学部を学校法人国際医療福祉大学から本法人へ移管する設置者変更の認可申請について手続きを進め、令和 2 年 10 月に文部科学省より認可を受けた。よって、本学は令和 3 年 4 月より 2 学部（医療学部・看護学部）4 学科（理学療法学科・作業療法学科・視能訓練学科・看護学科）1 専攻科（言語聴覚専攻科）となる。

● 専門学校柳川リハビリテーション学院

①本学院の特長を生かした教育の実施

本学院は、多様化する医療・福祉の分野において、高い専門知識・技術及び社会的スキルを教授し、あわせて豊かな心と自律性を育み、チーム医療ひいては社会に貢献し得る人材を育成することを目指している。

本学院は、柳川リハビリテーション病院等の近隣のグループ施設と連携しながら、3 年間で即戦力となる臨床家を育成している。

②学生への支援活動体制

○遠隔地の学生のために学生寮を保有している。

○最寄り駅から本学院までスクールバスを運行している。

○新型コロナウイルス感染症の影響により学院祭に替わる学生主催の学生交流会の開催を支援した。

○単位取得が困難な学生のみならず、自主的に学修を希望する学生に対して個別指導やグループ学習による指導を実施した。

○本グループ医療機関で受診した場合の教育後援会による窓口一部負担金の補助を行った。

③教職員の資質向上のためのFD・SDの実施

FD活動は、柳川リハビリテーション学院FD委員会を設置して取り組むこととしており、SDについても当委員会での審議に基づき、取り組みを展開している。

○令和2年度のFD活動実績

- ・3学科合同関連職種連携演習を実施し、多職種理解を促した。

④国家試験等合格状況（別表1）

全学科において、全国合格率を上回る結果となった。作業療法学科においては、2年連続100%という結果であった。引き続き、各学科において国家試験に向けた教育及び対策について継続して分析・検討を行い、きめ細かなサポート体制をとっていく。

⑤就職状況（別表2）

全学科において100%の就職率を達成した。今後も学科教員による丁寧な個別指導はもとより、キャリア支援担当者のサポートを行うことで学生の長所を生かせる就職先へ導くことを目指す。

⑥入学者選抜

○入学試験結果（令和2年度実施）

学部学科等	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
理学療法学科	40	50	45	43
作業療法学科	40	26	26	25
言語聴覚学科	40	33	30	29
計	120	109	101	97

○志願者確保の方策

早期受験者獲得のために、オープンキャンパス連動型入試“エントリー制A0入試”を全面アピール。新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン（A0）入試を導入し遠方の受験者獲得。指定校の増枠及び定期的な高校訪問における九州全域からの受験者獲得。特待奨学生特別選抜入試（チャレンジ受験）の最適化（オープンキャンパス等での受験者・保護者へのアピール）。オープンキャンパスにおける満足度向上アプローチ（1対1面談・在校生支援等）。高校-業者-学院におけるリレーション型進学ガイダンスの展開。学生寮の拡充による遠隔地出身者へのフォロー。パンフレット等の早期配布。夏季オープンキャンパス動員のための交通広告・モール広告の展開。

⑦自己点検・評価の実施

自己点検・評価委員会を設置しており、年度ごとに各学科の活動内容や学生募集状況等をまとめ、点検整備し、毎年5月に本学院ホームページ上で公表している。

● 大川看護福祉専門学校

①本校の特長を生かした教育の実施

本校は愛と誠実を全ての基として自主的精神を重んじ、“命の尊厳”“命の平等”を具現する感性豊かな人を育成することを教育理念とし、看護師、介護福祉士として必要な基礎的知識・技術・態度を習得し、温かな心と倫理観をもち、誇りをもって保健・医療・福祉に貢献できる人を育てることを目標としている。

令和2年度も教育理念・教育目標を実現するため、調和のとれた人格形成に必要な指導を行った。

②学生への支援活動体制

- 専門のカウンセラー（臨床心理士）に相談できる、こころの相談室を開設している。
- チューター制度を採用し、学生の学修や生活に関する相談や指導を実施している。
- 単位取得が困難な学生のみならず、自主的に学修を希望する学生に対して個別指導やグループ学習による指導を実施している。
- 本グループ医療機関で受診した場合の教育後援会による窓口一部負担金の補助を行った。

③国家試験等合格状況（別表1）

看護学科及び介護福祉学科において、国家試験合格率100%に向けた教育及び対策について継続して分析・検討を行い、きめ細かなサポート体制をとっていく。

④就職状況（別表2）

両学科において100%の就職率を達成した。今後も学科教員による丁寧な個別指導はもとより、キャリア支援担当者のサポートを行うことで学生の長所を生かせる就職先へ導くことを目指す。

⑤入学者選抜

○入学試験結果（令和2年度実施）

学部学科等	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
看護学科	40	90	59	37
介護福祉学科	40	17	17	16
計	80	107	76	53

○志願者確保の方策

オープンキャンパス（学校説明会）を頻回に実施。また北部九州エリアを中心に参事による年間のべ1,000校の高校訪問を実施。業者主催の進学ガイダンスへの参加。高校教員対象の学校説明会の開催。進学情報誌、WEB媒体の積極的な活用。個別の学校見学受入れ、出前講座・学校見学会の告知・実施等。

⑥自己点検・評価の実施

「自己点検・自己評価」を毎年5月までに実施し、本校ホームページに掲載し公開している。

(別表 1) 国家試験等合格状況

学校名	資格名	本学合格率	全国合格率
福岡国際医療福祉大学	言語聴覚士	88.2%	69.4%
専門学校 柳川リハビリテーション学院	理学療法士	91.3%	79.0%
	作業療法士	100.0%	81.3%
	言語聴覚士	75.0%	69.4%
大川看護福祉専門学校	看護師	100.0%	90.4%
	介護福祉士	90.0%	71.0%

※ 本学合格率は、令和3年3月卒業生の合格率

(別表 2) 就職状況

学校名	学科	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率
福岡国際医療福祉大学	言語聴覚専攻科	21	14	14 (1)	100.0%
専門学校 柳川リハビリテーション学院	理学療法学科	25	21	21 (2)	100.0%
	作業療法学科	15	15	15 (1)	100.0%
	言語聴覚学科	11	5	5 (0)	100.0%
大川看護福祉専門学校	看護学科	37	37	37 (26)	100.0%
	介護福祉学科	10	10	10 (10)	100.0%

※ 就職率は、就職希望者に対する就職決定率の割合

※ 就職決定者数欄の（ ）内はグループ関連施設に就職した人数

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：百万円)

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
固定資産	8,381	7,020	7,326	7,298	8,364
流動資産	2,077	2,404	3,134	3,036	2,749
資産の部合計	10,458	9,424	10,461	10,334	11,113
固定負債	1,569	39	37	43	55
流動負債	579	601	871	1,021	1,769
負債の部合計	2,148	640	908	1,064	1,824
基本金	8,355	8,615	8,616	8,916	8,987
繰越収支差額	△ 45	169	937	353	302
純資産の部合計	8,310	8,784	9,553	9,270	9,289
負債及び純資産の部合計	10,458	9,424	10,461	10,334	11,113

イ) 財務比率の経年比較

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
運用資産余裕比率	153.0%	189.9%	270.4%	228.6%	208.3%
流動比率	359.0%	399.8%	360.0%	297.4%	155.4%
総負債比率	20.5%	6.8%	8.7%	10.3%	16.4%
前受金保有率	488.5%	528.9%	561.7%	408.6%	179.2%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	99.6%	99.7%

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	1,177	1,018	640	727	880
手数料収入	19	10	17	22	40
寄付金収入	263	422	1,100	224	208
補助金収入	37	37	37	37	73
資産売却収入	3,321	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	3	4	23	14	19
受取利息・配当金収入	0	0	0	0	0
雑収入	207	152	76	48	106
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	396	433	540	717	1,481
その他の収入	2,507	1,433	418	463	522
資金収入調整勘定	△ 486	△ 437	△ 450	△ 578	△ 738
前年度繰越支払資金	2,639	1,932	2,200	3,031	2,929
収入の部合計	10,081	5,005	4,602	4,704	5,521

支出の部	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
人件費支出	567	572	493	689	638
教育研究経費支出	183	177	158	197	287
管理経費支出	290	285	500	260	223
借入金等利息支出	37	0	0	0	0
借入金等返済支出	4,410	0	0	0	0
施設関係支出	0	6	0	13	1,198
設備関係支出	18	7	196	161	84
資産運用支出	0	290	25	4	0
その他の支出	2,718	1,453	368	594	583
資金支出調整勘定	△ 74	△ 76	△ 169	△ 142	△ 147
翌年度繰越支払資金	1,932	2,290	3,031	2,929	2,655
支出の部合計	10,081	5,005	4,602	4,704	5,521

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

科目	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	1,696	1,624	1,867	1,053	1,308
教育活動資金支出計	1,040	1,034	1,006	1,146	1,149
差引	656	590	861	△ 93	159
調整勘定等	△ 62	21	222	140	840
教育活動資金収支差額	594	611	1,083	47	999
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	3,321	11	0	0	0
施設整備等活動資金支出計	18	13	196	174	1,282
差引	3,303	△ 2	△ 196	△ 173	△ 1,281
調整勘定等	△ 4	0	0	0	△ 61
施設整備等活動資金収支差額	3,299	△ 2	△ 196	△ 173	△ 1,342
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	3,894	608	887	△ 127	△ 343
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,471	1,399	407	444	502
その他の活動資金支出計	7,071	1,667	463	422	434
差引	△ 4,600	△ 268	△ 56	22	69
調整勘定等	0	17	△ 1	4	0
その他の活動資金収支差額	△ 4,600	△ 251	△ 56	25	69
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 706	358	831	△ 102	△ 274
前年度繰越支払資金	2,639	1,932	2,200	3,031	2,929
翌年度繰越支払資金	1,932	2,290	3,031	2,929	2,655

ウ)財務比率の経年比較

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
教育活動資金収支差額比率	35.0%	37.6%	58.0%	4.4%	76.4%

③事業活動収支計算書関係

ア)事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

科目		H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,177	1,018	640	727	880
	手数料	19	10	17	22	40
	寄付金	263	411	1,100	224	221
	経常費等補助金	37	37	37	37	73
	付随事業収入	3	4	2	2	1
	雑収入	207	152	76	48	106
	教育活動収入計	1,705	1,632	1,873	1,059	1,321
	事業活動支出の部					
	人件費	566	577	492	695	650
	教育研究経費	300	282	258	322	416
	管理経費	314	309	375	283	247
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	1,180	1,169	1,124	1,299	1,313
教育活動収支差額	525	463	748	△ 240	8	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外収入	0	0	21	12	18
	教育活動外収入計	0	0	21	12	18
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	37	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	37	0	0	0	0
教育活動外収支差額	△ 37	0	21	12	18	
経常収支差額	489	463	770	△ 228	26	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	521	0	0	0	0
	その他の特別収入	0	11	0	2	0
	特別収入計	521	11	0	2	0
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	2	0	1	0	7
	その他の特別支出	0	0	0	57	0
	特別支出計	2	0	1	57	7
特別収支差額	519	10	△ 1	△ 55	△ 7	
基本金組入前当年度収支差額	1,008	473	769	△ 283	19	

基本金組入額合計	△ 1,418	△ 301	△ 2	△ 301	△ 134
当年度収支差額	△ 410	172	767	△ 584	△ 115
前年度繰越収支差額	360	△ 45	169	937	353
基本金取崩額	6	41	1	0	64
翌年度繰越収支差額	△ 45	169	937	353	301

(参考)

事業活動収入計	2,226	1,643	1,894	1,073	1,339
事業活動支出計	1,218	1,169	1,125	1,356	1,320

イ)財務比率の経年比較

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
人件費率	33.2%	35.4%	26.0%	64.9%	48.5%
教育研究経費比率	17.6%	17.3%	13.6%	30.1%	31.1%
管理経費比率	18.4%	19.0%	19.8%	26.4%	18.4%
学生生徒等納付金比率	52.8%	62.0%	33.8%	67.7%	65.7%

※H30年度より寄付行為上の収益事業を収益事業会計として学校法人会計より分離

(2) その他

①補助金の状況

(単位：百万円)

内容	施設	金額
福岡県看護師等養成所運営費補助金	大川看護福祉専門学校	18
修学支援制度授業料減免給付金	福岡国際医療福祉大学	25
福岡県私立専門学校授業料等減免補助金	大川看護福祉専門学校	15
福岡県私立専門学校授業料等減免補助金	柳川リハビリテーション学院	14
合計		72

②収益事業の状況

福岡市中央区長浜において駐車場賃貸をしており、その状況は次のとおりである。

貸借対照表

(単位：百万円)

	H30年度	R1年度	R2年度
資産の部			
流動資産	255	261	178
固定資産	10	7	6
資産の部合計	265	268	184
負債の部			
流動負債	2	0	2
負債の部合計	2	0	2
純資産の部			
元入金	263	268	181
繰越利益剰余金	0	0	1
純資産の部合計	263	268	182
負債及び純資産の部合計	265	268	184

損益計算書

(単位：百万円)

科目	H30 年度	R1 年度	R2 年度
売上高	76	33	32
経費	49	14	13
経常利益	27	19	19
学校法人繰入支出	21	12	18
税引前当期利益	6	7	1
法人税等	6	7	1
当期純利益	0	0	1

③学校法人間財務取引

(単位：百万円)

学校法人	取引内容	金額
(学)国際医療福祉大学	福岡国際医療福祉大学 ももち国際ホール 賃貸料	6
(学)国際医療福祉大学	福岡国際医療福祉大学 ももちアスリーナ 賃貸料	10

(3) 経営状況の分析

①決算の概要

当期の学生納付金収入は、令和2年3月に福岡国際医療福祉学院が閉校したものの、福岡国際医療福祉大学が学年進行により学生数が増加し、法人全体では前期比153百万円増加の880百万円となった。学納金を含めた教育活動収入は1,321百万円となった。

当期の教育活動における支出は、福岡国際医療福祉大学の学年進行により人件費、教育研究経費が増加したものの、福岡国際医療福祉学院の閉校による経費減少もあり、法人全体では前期比14百万円増の1,313百万円となった。

上記により、当期の経常収支差額は8百万円となった。

また、令和3年度に高木学園へ移管となる看護学部の校地校舎1,176百万円を自己資金により取得した。

②来期以降の見込み

来期の学生納付金収入は、国際医療福祉大学福岡看護学部の移管及び福岡国際医療福祉大学の学年進行等により学生数が増加するため、約947百万円程度の増加を見込んでいる。

来期以降については、令和4年度まで福岡国際医療福祉大学が学年進行で学生増加が見込まれること、また、令和5年度から私立学校経常経費補助金の受給対象となるため、収支は年度進行とともに大幅に改善をしていく見込みである。